

代表質問 自民党こまつ 川崎 順次(かわさきじゅんじ) 議員 一括質問

この12年間企業誘致が1社もなかった。

これがすべてだ!!

◆今は首長を見比べる時代

Q 会派自民の質問で4期に向け頑張ってきたと答弁しました。我々議会は、この12年間の検証が必要。市民もリーダーが何を言い、実行したか見抜くべきである。

A 励ましを頂いたこと感謝申し上げます。12年間の評価検証を是非お願いしたい。ほぼ満点の評価をいただけると自負している。

◆コロナ対策について

Q 各自治体では第3波流行に備え、市独自対策をしている。白山市では1万6,550人の中学生以下の子供に対し5千円分の図書カード配布等。加賀市では高齢者へのPCR検査費用全額補助等。本市の対策は。

A 市独自の施策は、今回を含め、20億4千万円。他の自治体に比べ数段金額が多く、独自のものも実施した。

◆来年度の市税収入見込みは

Q 令和2年度の市税収入は。令和元年からこのコロナ感染拡大により税収はどのくらい落ち込み、令和3年度はどのくらいの市税収入を見込んでいるのか。

A 令和2年度は昨年度決算に比べ、9億4千万円減額となる。法人市民税に最も影響

がある。令和3年度は、国の地方交付税の増額や、補填の特別交付金もあり、今年度より3億円の歳入減になり、必要最小限に留められる見込み。

◆2021年度予算編成方針は。

A 経済の活性化と負債のバランスを見ながら、国の方針を見据え、ビジョンによりバツキキャスト方式で将来像を見定めていく。市民が安心して暮らせるよう耐震化、基幹設備、インバウンド、観光のまちづくり等行っていく。

Q 市民は悩みながら商売や事業を進めている。ピンチをチャンスに政治家が希望を示すことが大事。森喜朗元総理や当時の市長や議会は20年30年前から北陸新幹線小松開業に向けて未来の子供たちのため空港小松駅を中心に駅高架化都市計画道路等、整備をしてきました。そこで、小松駅周辺の再開発を進めては。またこの12年間大型企業の誘致が1社もない。小松市の税収入雇用確保を考えれば企業誘致は欠かせない。

A 駅西・駅東・駅南エリアの整備、在来線・新幹線の高架下の活用等が小松駅の中核のパワーになってくる。空港周辺の臨空ゾーン



等、全ての地域が潤いを持つていくよう取り組んでいく。

◆下水道事業について

Q 地球温暖化や環境汚染対策にとって欠かせない。早急に対応を。

A 下水道事業は、平成21・28年度に汚水処理整備の効率的見直しを行った。今後とも、公共下水道事業の普及だけでなく、汚水処理人口普及率を考慮し、収支のバランスを保ち、安心、安全な住環境を目指し、経営していく。

◆部活動の地域委託について

Q 文科省は公立中高の休日部活動の地域委託を考えているがどうか。

A 3年前に国の方針を踏まえ、専門家からの指導のもと、部活動について見直しを行なった。また、中学校全校に部活動外部指導員21名を配置し、効果をあげており、この体制を継続していく。

15人が
質問しました。

12月定例会

■ 一括質問
■ 一問一答

1	代表質問 会派自民 灰田 昌典 議員	● コロナ禍における市税の見直しと対応について ● 北陸新幹線敦賀開業時期に関する延長論議について ● 安宅新地区土地区画整理事業について ● 今後の社会資本整備（公共事業）と観光政策について ● これまでの市政運営と今後について	8ページ	2	代表質問 自民党こまつ 川崎 順次 議員	● 今は首長を見比べる時代 ● コロナ対策について ● 来年度の市税収入見込みは ● 下水道事業について ● 部活動の地域委託について	9ページ
3	竹田 良平 議員	● 障がい者があんしんして暮らせる社会 ● 空き家への対応 ● 体育館等、公共施設におけるスマートロックの活用 ● スマートフォン普及への取組	11ページ	4	岡山 晃宏 議員	● 長期的な鳥獣対策について ● スマートフォンを活用した市民サービス向上について ● 木場潟の流し舟について ● 小松大学生のキャンパスライフの充実について	11ページ
5	東 浩一 議員	● 松東みどり学園の教育環境とオープンキャンパスの結果は ● 農林業でのドローン活用は ● 里山地域の拠点連携について ● 危険空き家について	12ページ	6	吉田 寛治 議員	● 小松市の知の拠点としての施設の必要性について	12ページ
7	梅田 利和 議員	● 消防防災対応の全体像における位置付け	13ページ	8	橋本 米子 議員	● 核兵器禁止条約の発効について ● コロナウイルス感染の「第3波」に備えた対策強化について	13ページ
9	杉林 憲治 議員	● 行財政改革の成果は ● 持続可能な財政運営の方策	14ページ	10	木下 裕介 議員	● 子宮頸がん予防ワクチン ● 開かれた教科書採択を ● 末広陸上競技場の照明について	14ページ
11	吉村 範明 議員	● 小児慢性特定疾病児及び医療的ケア児の支援について ・ 施設について ・ 支援、サービスについて ・ 学校等のサポート体制について	15ページ	12	吉本 慎太郎 議員	● 公立小松大学の就職支援について ● 「リモート」観光と「リアル」観光	15ページ
13	片山 瞬次郎 議員	● 公立小松大学・大学院の設置は ● コロナ禍でのICT活用 ● 防災力向上のための地域での防災意識・教育は ● 不妊治療・不育治療について	16ページ	14	円地 仁志 議員	● 木曽町地域優良賃貸住宅整備事業 ● 安宅新地区土地区画整理事業における道路の4車線化について	16ページ
15	宮川 吉男 議員	● 市長選挙と感染対策について ● 8020運動推進について ● 石川県立小松屋内水泳プールの利用について	17ページ				



竹田 良平(ただけりょうへい)議員

一括質問

障がい者があんしんして暮らせる社会等 4項目

◆障がい者があんしんして暮らせる社会

Q リモートワーク等、障がい者の新しい働き方をどう進めていくか。

A 障がいのある方が長期にわたって安心して働ける環境づくりやこれからの新しい生活様式を意識したリモート用のパソコン整備等環境づくりを推進していく。

Q 新しい生活様式も踏まえた第7期障がい者プランのポイントは。

A 住民同士による支え合い活動の推進、心身の健康づくりと重症化予防の取組の推進、社会的孤立を防ぐ重層的で切れ目のない相談支援体制の構築等を入れ、今年度中に計画策定を終える。

◆空き家への対応

Q 空き家有効活用家賃補助金について、借主が法人の場合も補助金の対象としてはどうか。

A 法人と一言で言っても様々な企業があり、今後対象に向けて前向きに業種や条件を検討し、令和3年度から実施したい。

◆体育館等、公共施設におけるスマートロックの活用

Q 鍵当番の負担が軽減されることに加え、災害時の避難所開設の際も有効ではないか。

A 学校施設において避難所開設時には体育館だけでなく、要配慮者のための教室の利用や、コロナ禍では感染予防エリアの設置等が必要であり、スマートロックは生かされにくいと考える。

Q 施設の予約システムとして活用できるのではないか。

A 今後は、利用者の利便性の向上や管理の効率化の観点から予約システムとの一体的な運用も含めて、利用・管理の双方の形態にあった手法を検討していきたい。

◆スマートフォン普及への取組

Q スマホ教室の実施等、デジタル格差を減らすための対応は。

A 現在、携帯電話通信会社や市立公民館、民間団体等が教室等を行っている。今後はノウハウを持つ通信会社と連携し積極的に教室の利用を呼び掛けていきたい。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

長期的な鳥獣対策について

Q 緩衝帯等の里山整備について。

A こまつクマ出没防止プランを策定し、里山進入防止ラインの構築や捕獲おりのICT化を盛り込む。また、放置林や緩衝帯の整備はいしかわ森林環境税だけでなく、森林環境譲与税も活用する。

Q エサ不足への対応は。

A ボランティアを中心に植樹を行ってきたが、今後は森林環境譲与税も活用し森林の再造林の促進、餌となる広葉樹の植栽や熊がすみやすい環境づくりに必要な森林環境整備を行う。また費用の一部はふるさと納税を活用したクラウドファンディングを行い、既に全国から多数の方に御賛同頂いている。

◆スマートフォンを活用した市民サービス向上について

Q LINEアプリの活用拡大について。

A これまで目的に合った様々なアプリを活用してきたが、LINEも有効なツールであると捉え、進化するデジタル技術に注意を払い、最適な市民向けサービスを提

供する。

Q 高齢者に向けたスマートフォン講習会の開催について。

A スマホ相談室を実施する団体などに、こまつ100クラブの助成を実施した。また、既に地域独自でIT推進員等の役割について協議を進めている所もあり高齢者も含め、誰もがデジタル化の恩恵を受けられるよう進めていく。

◆木場潟の流し舟について

Q ルート変更や太陽光発電モーター利用等、来年度の運航内容は。

A 4月から民間に委託し、1日3便に増やす。運航ルート拡大や動力を用いた運航に関しては人材確保が必要であり、将来的な課題とする。

◆小松大学生のキャンパスライフの充実について

Q 授業の空き時間の居場所の確保について。

A 大学以外にも専用のセミナーハウスが軒あり、他にもこまつ杜やサイエンスヒルズ等、今後も駅周辺を「学び」をテーマに、さらに充実したまちづくりをしていく。



東 浩一（ひがし こういち）議員

一括質問

松東みどり学園・スマート農林業・ 里山の活性化・空き家対策について

Q 松東みどり学園の教育環境とオープンキャンパスの結果は。

A 地域の方々、小中学校の保護者約200名、説明会には広域通学希望者、そして児童生徒約300名の参加を得ました。特色的な教育活動では、「一年生から英語活動」「五年生から英語、理科で教科担任制」「ICT活用の授業設計、サイエンスヒルズ、外部人材との連携」「五年生から部活動参加可能」等で、最大の特色は、九年間一貫した教育を行うことである。

Q 里山地域の拠点連携について。

A 里山全体がつながり、経済・社会・環境分野で持続可能な循環型社会の実現を目的に、こまつ里山SDGs倶楽部を設立。環境整備については、光ファイバー網を生かし古民家再生・ワーケーション等、グローバルな交流拠点づくりを進め、拠点地域内でのレンタサイクルの運用等、二次交通を検討し、将来的に次世代モビリティ導入等シームレス化を図り、スマート里山ビレッジを目指したいと思っている。

Q 農林業でのドローン活用は。

A ドローンを始めICTやロボット技術等の先端技術は、更なる活用範囲の広がりや、技術向上が予想されます。今後の方針としては、農林業の核となるJA小松市、かが森林組合を中心に連携、チームを組んで大規模な法人から、個人まで幅広く普及させるためのシステム構築を図りたいと考えている。

Q 危険空き家について。

A 老朽化で危険な空き家は、空き家審議会です20件を特定空き家と認定している。解体補助制度の上限は30万円ですが、影響度や、色々な公共の秩序が妨げられる等、顕著な場合は、その費用補助についても柔軟に考えていかなければと思っています。



吉田 寛治（よしだ かんじ）議員

一括質問

小松市の知の拠点としての 施設の必要性について

Q 小松市の図書館は、計画のある内灘の図書館が設立されると、県で一番古い図書館となる。図書館建築における権威である先生は小松の図書館を見て、「今の状態は本の物置である」と評した。狭さや本の収容能力の限界はどうしようもない。公会堂は昭和34年の戦後間もないの建設。大ホールの使用状況は一昨年105回であり、約80%が高校生の使用。使用料は一回の定期演奏会で練習を含め30万〜90万という高額。一方、能美市のタントでは無料である。ホールは日常生活の中に美術文化を提供し、市民生活の質を高めるために非常に大切な場だ。博物館、本陣美術館も訪問者は年間約五千人〜六千人であり低い数字である。どの施設も駐車場が不便すぎる。以前、小松市の知の拠点は芦城公園周りであるという回答であったが、現状を知っていただきたい。複合施設の必要性を市長に問う。

最後に、読書の喜びに目覚めた70歳の女性の投稿について。「母親から、漫画でもいいから読むように言われていました。」「長い年月が過ぎ、家の近所にのいちカレードがオー

ブンし図書館に通うようになりました。」「読書と散歩が日課になり、本を読む楽しみを覚えました。母親の言っていたことを今、やっと理解しています。」

A 全国的に財政の見通しは、人口減少による税収の減、少子・超長寿による社会保障関連の増等、厳しい状況が見込まれる。

本市では公共施設の維持管理は、計画的な修繕、改修による予防保全に主眼を置く公共施設マネジメントであり、更新による多額の経費を抑え、長寿命化を図っている。7つの文化施設が集約する芦城公園は、歴史と文化が融合する、憩いと教養の場として位置づけられている。

今年度は、市制80周年を記念し、各館イベントを開催しており、コロナ禍であったが多くの市民が参加した。また、コロナ禍での音楽イベントの開催を支援する未来へつなぐ音楽振興事業により、実際に高校の定期演奏会の会場使用料等経費を応援している。

ここにしかない複合的な体験、交流の場を提供し、小松の文化ゾーンを目指す。